

株式会社京都産業振興センター

第1 法人の概要

1 代表者

代表取締役社長 辻智之

2 所在地

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

3 電話番号

075-762-2633

4 ホームページアドレス

<https://www.miyakomesse.jp/> (京都市勸業館)

5 設立年月日

平成5年4月27日

6 資本金

90,000千円 (うち本市出資額 54,000千円, 出資率 60.0%)

7 事業目的

京都市勸業館 (美術工芸ギャラリー含む。) の管理運営, 展示会, 見本市等の企画開催及び誘致ほか

8 業務内容

- (1) 京都市勸業館 (美術工芸ギャラリー含む。) の管理運営
- (2) 京都伝統産業ミュージアムの管理 (公益財団法人京都伝統産業交流センターとの連携による。)
- (3) 展示会, 見本市等の企画開催及び誘致

9 所管部局

産業観光局クリエイティブ産業振興室 (TEL075-222-3337)

10 役員名等

(1) 取締役会長

山本達夫 (産業観光局長)

(2) 代表取締役社長

辻智之

(3) 取締役

上林秀行, 兒島宏尚, 田中雅一, 林史己, 松村孝之, 坂本勝, 草木大 (産業観光局クリエイティブ産業振興室長)

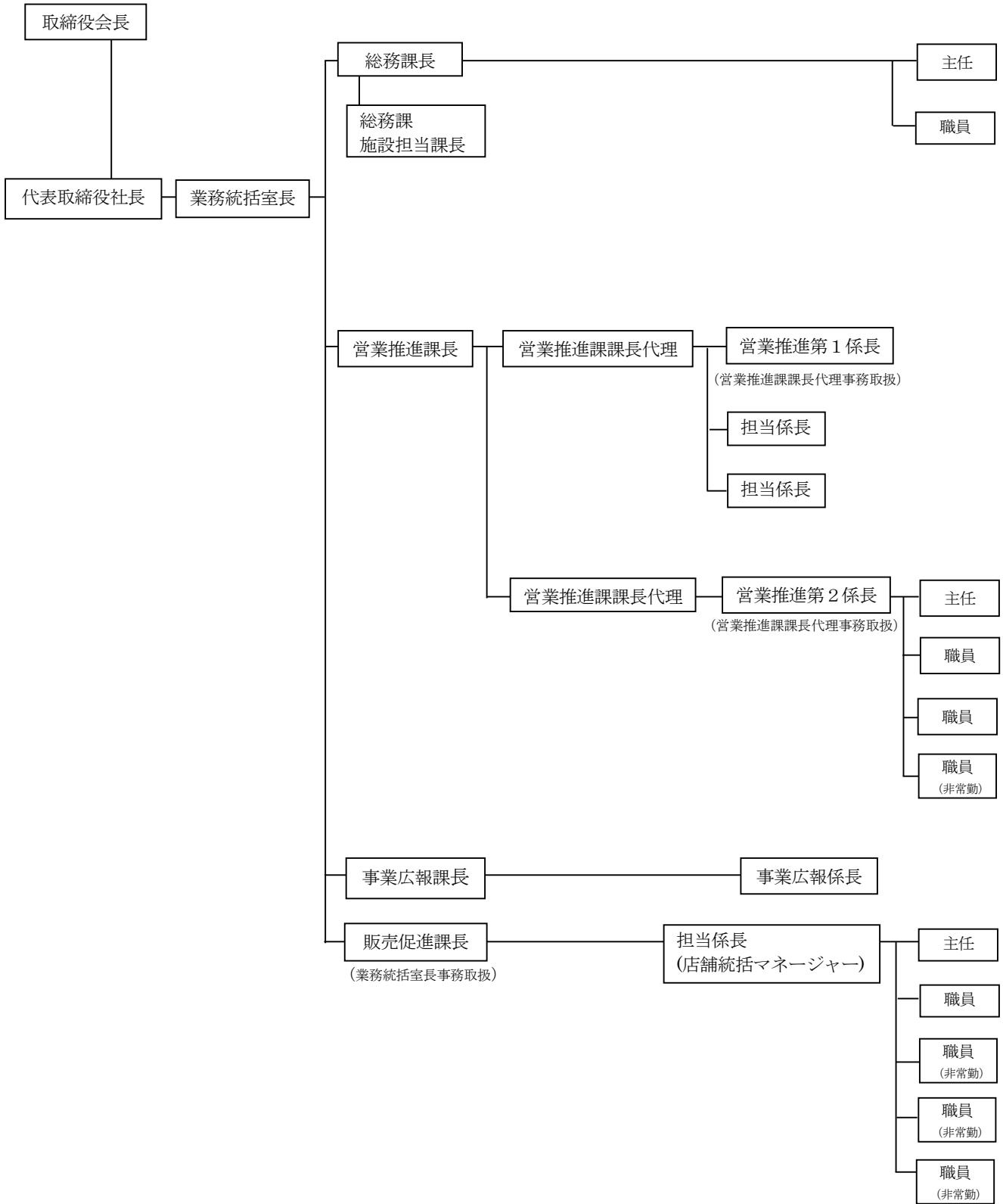
(4) 監査役

外村弘樹, 川越とし子

11 常勤職員数

18人 (うち本市派遣職員0人)

12 組織機構



第2 経営状況

1 令和元年度決算

(1) 事業報告

ア 京都市勧業館の指定管理

(ア) 展示場の利用状況

面積稼働率 50.71%，利用件数 441 件

(イ) 会議室の利用状況

稼働率 39.09%

イ 京都伝統産業ミュージアムショップの運営

ミュージアムショップ商品売上 26,859 千円（消費税等除く。）

※10月1日から2月9日まで仮店舗での営業，2月10日から3月5日及び3月13日は新店舗
開店準備のため休店，3月14日リニューアルオープン

ウ 美術工芸ギャラリー（勧業館内）の運営

稼働延べ日数 445 日（445 日／718 日），稼働率 61.97%

(2) 財務諸表

貸借対照表

令和2年3月31日現在

（単位：千円）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	[707,776]	流動負債	[184,667]
現金及び預金	667,026	買掛金	727
売掛金	133	未払金	101,625
商品	919	未払消費税等	3,780
前渡金	50	未払法人税等	3,249
未収入金	39,729	未払費用	
貸倒引当金	△81	前受金	65,900
固定資産	[44,294]	預り金	1,629
（有形固定資産）	(43,791)	賞与引当金	7,756
建物	28,782	固定負債	[25,656]
構築物	1,855	退職給付引当金	25,656
器具・備品	10,096	預かり保証金	0
その他の有形固定資産	3,058	負債合計	210,323
（無形固定資産）	(503)	純資産の部	
電話加入権	306	株主資本	[541,747]
ソフトウェア	197	資本金	(90,000)
		利益剰余金	(451,747)
		利益準備金	180
		その他利益剰余金	
		付帯設備改善積立金	50,000
		別途積立金	320,000
		繰越利益剰余金	78,567
		純資産合計	541,747
資産合計	752,070	負債及び純資産合計	752,070

損益計算書
平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額	
【経常損益の部】		
(営業損益の部)		
売上高		696,408
売上原価		223,893
売上総利益		472,515
販売費及び一般管理費		459,387
営業利益		13,128
(営業外損益の部)		
営業外収益		
受取利息及び配当金	235	
その他	10,702	10,937
営業外費用		
その他	381	381
経常利益		23,684
【特別損益の部】		
特別利益		33,242
特別損失		34,838
税引前当期純利益		22,087
法人税，住民税及び事業税		8,042
当期純利益		14,045

株主資本等変動計算書
平成31年4月1日～令和2年3月31日

(単位：千円)

	株主資本							株主資本 合計	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益剰余金						
			利益 準備金	付帯設備 改善積立金	25周年記念 事業積立金	別途積立 金	繰越利益 剰余金		
前期末残高	90,000		180	50,000	0	320,000	67,521	527,701	527,701
当期変動額									
剰余金の配当									
剰余金の配当に伴う利 益準備金の積立									
積立金の積立					3,000			3,000	3,000
積立金の取崩							△3,000	△3,000	△3,000
当期純利益							14,045	14,045	14,045
当期変動額合計	－	－	－	－	3,000	－	11,045	14,045	14,045
当期末残高	90,000	－	180	50,000	3,000	320,000	78,567	541,747	541,747

2 令和2年度事業計画及び予算

(1) 経営指標

ア 勸業館

- (ア) 展示場 年間面積稼働率 54.5%以上
- (イ) 会議室 年間区分稼働率 44.5%以上
- (ウ) 美術工芸ギャラリー 年間区分稼働率 64.0%以上

イ 京都伝統産業ミュージアムショップ

年間売上額 5,400 万円以上

ウ 京都市への納付額

年間 1億9,500 万円

(2) 事業計画

ア 勸業館事業

(ア) 地域別・ターゲット別の広報強化

- a 潜在顧客や休眠顧客に対する情報誌の発信
- b 会場見学会や東京・大阪での営業に際し、プロモーションビデオを活用する。

(イ) イベントサポート・サービスの充実による固定客も含めた顧客の維持拡大

単なる貸館業務だけでなく、施設利用者の多様なニーズに対応するため、当社社員が営業時だけでなく成約後も催事運営の企画、提案を行い、イベント等の魅力を最大限に引き出せるよう、きめ細やかなイベントサポート・サービスを提供する。

(ウ) 企画提案型営業及び調整型営業による新規開拓

- a 大型展示・見本市のBtoBや全国大会、記念式典の利用促進・誘致強化
- b コンベンション及びエキシビション誘致を中心にオール京都体制によるMICE取組との連携強化、岡崎MICEの推進

(エ) コンベンションビューローと連携した集客強化

財団と連携し、ユニークベニューとしてのミュージアムの活用提案を行うとともに、東京、大阪、海外での商談会出店先の開拓に取り組む。

イ 京都伝統産業ミュージアム連携事業

(ア) ミュージアムショップ事業

- a ミュージアムの企画展等とも連動した商品陳列と販促実施
- b 若手職人のアンテナショップ機能の展開

(イ) WEB媒体の連携

ミュージアムと連携して集客の入り口となるSNSの発信強化に取り組む。

(ウ) 情報誌やメディアを活用するPR活動の強化

(エ) 新しくなった光庭を活用した集客強化

(オ) コンベンションビューロー、旅行会社と連携した集客強化

(カ) ホテル等との伝統産業にかかるコラボ事業

ウ その他事業

(ア) 施設・設備の整備、ユニバーサルデザインの強化等

(イ) 美術工芸ギャラリー

良好な施設環境と廉価な使用料であることを広く周知し、さらに多くの方に利用いただけるよう努める。また、使っていただきやすいように割引制度を継続し、岡崎の芸術文化発信拠点となるよう努める。

(ウ) レストラン事業

エ 自主事業

(ア) 産業振興、文化発信

- a 「みやこめっせ経済・文化講演会」
テーマ・講師未定（定員2,000名）

- b 「京ものフェスティバル (3月)」
「京都市伝統産業の日」関連事業として、伝統工芸品の体験や販売につながる催事を開催する。
 - c 「みやこめっせウェルカムプラン (随時)」
ミュージアムの製作体験事業とも連携することで、修学旅行生等を対象に、伝統工芸品の製作体験を実施する。
- (1) 賑わい創出，地域活性化
- a 「桜まつり」
光庭やウェルカムホールを活用し、地域の方や観光客に春のひと時を楽しんでいただくとともに市内芸術大学生の発信の場として実施する。
 - b 「Live Square @ MIYAKOMESSE」
みやこめっせ中央広場や光庭を活用し、春秋の午後に若手ミュージシャンやパフォーマーにライブを行ってもらい、二条通の賑わいづくりに貢献する。(年 10 回開催)
- (3) その他の取組
- ア 社員研修
- 社員の意欲，能力の向上を目指して全社員を対象とした研修を計画的に進める。
- (ア) 全体研修 (教養研修)
 - (イ) 管理監督者研修
 - (ウ) 業務研修
 - (エ) 自己研修
 - (オ) 業績評価シートによる評価制度の導入
- イ 第三者機関による経営評価の実施
- 外部の第三者専門家の意見を経営に反映するため経営評価委員会を設置しており，令和 2 年度も同委員会を 2 回開催する予定。

(4) 予算

予定損益計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
【経常損益の部】	
(営業損益の部)	
売上高	709,000
売上原価	245,400
売上総利益	463,600
販売費及び一般管理費	452,700
営業利益	10,900
(営業外損益の部)	
営業外収益	8,000
営業外費用	400
経常利益	18,500
【特別損益の部】	
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期純利益	18,500
法人税、住民税及び事業税	0
当期純利益	18,500

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
損益計算書	売上高	903,598	698,551	696,408	709,000
	経常利益	41,995	26,769	23,684	18,500
	当期利益	19,456	11,465	14,045	
	減価償却前利益	26,131	17,323	20,313	
貸借対照表	総資産	745,788	732,716	752,070	
	総負債	229,551	205,015	210,323	
	純資産	516,236	527,701	541,747	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H29 (決算)	H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (予算)
委託料	「京都館」管理運営	47,838			

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、常設展示場（京都伝統産業ミュージアム）のリニューアル工事に伴い、併設するミュージアムショップも規模を縮小しての営業となったことや、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年2・3月の展示場利用が相次いでキャンセルとなったこと等に伴い、会社全体の売上高及び営業利益が昨年度比で減少となったものの、最終的に収支は黒字を計上しており、経営努力を評価できる。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は、常設展示場（京都伝統産業ミュージアム）のリニューアル工事に伴い、併設するミュージアムショップも規模を縮小しての営業となったことから、新たな取組の実施が困難な状況であった。 また、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年2・3月の展示場利用が相次いでキャンセルとなり、展示場稼働率における当初目標の53%には及ばなかったが、夏休み中の子どもたちをターゲットにした大型イベントが新規開催されるなど、展示場稼働率の向上に向けた取組を着実に推進されており、京都産業の振興に貢献していると評価できる。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"> 売上高が昨年度に比べて若干減少となったものの、最終的に黒字を維持、継続できた点は評価できる。
事業面	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による管理運営施設の大幅な稼働率低下という非常に厳しい状況が続くと想定されるが、あらゆる手立てにより、稼働率の回復に努めていただきたい。